

3月7日、JR東労組・横浜地本は、「組合員と共に歩む横浜地本3・7春闘総決起集会」を開催した模様であり、「集会アピール」を発している。内容は、東北3地本や大宮地本が中央本部へ「臨時大会の開催」「新執行部の確立」を求めている動きと類似しており、次の「3点」を中央本部に要求することを機関決定し、集会でも確認したとのこと。「①3月11日までに、事態の収束を図る為に12地本が統一出来る中央方針を明確にすること」「②労使関係を立て直し、『労使共同宣言』の再締結に向けた努力すること」「③現中央本部体制において中央方針の再確立が出来ない場合は、臨時大会を開催すること」である。

～続々と、地本が中央本部の責任追及を機関決定し表明～

横浜地本は‘条件’付きで「臨時大会の開催」を要求！

もはや全脱退者は1万5千人を優に超え、近いうちに2万人に達する勢いであるとも耳にする。一部地本では支部組織が消滅している事例もあるとのこと。組織が壊滅状態に陥る中、この短期間で‘全地本が統一出来る中央方針を示せ’というには無理があろう。横浜地本としての独自性があるように見えても、つまるところは現中央本部に責任をなすりつけて失脚させ、新体制を確立し‘生まれ変わる’ことを目指すということなのか。そうすれば革マル色を払拭でき組織温存が可能とでも考えているのか。3月11日に招集されている(?)という会議の結果とその後の行動に注目したい。

もう少し、東北3地本や大宮地本が発した組合員向けメッセージの内容と比べてみよう。既報のとおり（民主化闘争情報 No. 983）、ベアの原資の配分方式等に関する労使間の認識の一致など無いにも拘わらず、横浜地本は『職場からのたたかひの結果、「所定昇給額をベアの算出根拠にすることにはこだわらない」とする回答を引き出し、その目的を果たし確立したスト権は失効、労使の紛争状態は解決したことを確認してきました。』と記載している。‘スト権は失効’という文言の意味・正誤はよく分からないが、事実と反する「労使間の認識の一致」があったと喧伝するスタンス（中央本部と同様）は、他地本が「組合員の懐疑的な声」を積極的に紹介しているのとは異なる（本部に近い？）とも感じる。いずれにせよ、旧動労、JR革マルの牙城とも見られている地方組織が、続々と類似する動きを見せていることは興味深い。

また同集会アピールでは、くどいほどに‘反省の弁’を綴っているのも特徴的だが、目を疑うような記述もある。「横浜地本執行委員会は（中略）苦しく辛いときだからこそ仲間と繋がり、包み込み、東労組の旗のもと結集することが大切です。『労使共同宣言』の精神を継承しつつ、信頼関係を回復し、組合員が第一の東労組運動で明るく働きがいのある職場を創るために奮闘していきます。」とある。例を挙げればキリがないが、浦和電車区事件（組合員脱退・退職強要）然り、36協定問題で散々現場を大混乱に陥れる運動、1年前に確立したスト権で内外をかき乱し、事実と反する交渉内容を喧伝し、嘘の理由でスト権行使指令を解除するなど、組合員不在の運動を繰り返すJR東労組に今更誰が結集するのか。体制は変わっても性質は変わらない。

現組合員の皆さん、冷静かつ客観的に見極め、行動しよう！